

第9回白石町学校統合再編審議会会議録（要約）

日 時：令和元年12月17日（火）19:00～20:30

場 所：白石町役場 3階大会議室

出席者

◆審議会委員20名

◆事務局

◆企画財政課職員

進行：学校教育課長

1 開会

進 行：皆さん、こんばんは。今日は2人から欠席の連絡をいただいております。その他の方はご出席でございますので、若干早いですが、始めたいと思います。現在22人の委員の内、只今の出席は20人でございます。「第9回白石町学校統合再編審議会」を開催させていただきます。

では、お手元の「審議会次第」により進行させていただきます。

2 会長挨拶

進 行：松尾会長にご挨拶をいただきます。

会 長：皆さん、こんばんは。12月の押し迫った中に、そしてまた昼のお仕事の終わりで、お疲れのところにご集まっていただきまして、大変ありがとうございます。今回は白熱した議論をいただきました。学校の数を1校にするか、2校にするか、あるいは3校の意見もありました。また、校区をどうするかというような意見もございました。今日は前回の続きということで、学校の数、校区をどうするか、こういったことを中心に進めて行きたいと思いますので、皆さま方の活発な議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

進 行：ありがとうございます。

3 前回会議録の確認

進 行：前回会議録をお配りしていたが、何か誤りや不適切なところはなかったか。（特になし）

進 行：それでは、これで公開とさせていただきます。

4 議事

進 行：それでは、次第4、議事となるが、ここからの進行については、松尾会長にお願いする。

議 長: それでは、皆さま方のご協力をよろしくお願いする。

(1) 審議(小学校の再編策について)

まず、委員より事務局の方に資料の作成依頼があつているので、その依頼理由について、委員から説明をいただきたいと思う。お願いする。

委員 A: 皆さんこんばんは。資料の請求をしました。今後の子どもたちの人口減少を考えた時に、私は最初から1校がベストではないかなというような考えでいたところ、前回ぐらいから適正規模の議論が出てきたので、いろいろと考えているところであります。そこで、事務局の方に2つの資料をお願いしました。1つは1校900人規模の学校にした場合、いつまで続くのか。あと1つは適正規模になるまでの間、みんなの努力で何とかやりくりできないのか。以上の2つです。わたしも子どものことを一番に考えるべきだと思っています。だからこそ、わたしの持論では、2校にしてすぐにどちらか1校が適正規模を下回るようであれば、今回の統合再編は何だったのだというふうに思います。1校にして、適正規模を超えている期間が短く、その間何とかやりくりできれば、全地域の児童が1学年2学級以上の仲間と勉強できると考えております。わたしも1校にこだわるわけではありませんが、より最適を求めて、1校がいいか、2校がいいかの議論を深めたいと思う。

事務局より資料説明【資料53】

議 長: ただ今、資料の説明があつたが、質問ないか。

委員 A: 資料からいくと、1校の場合、令和17年から22年くらいの間で適正規模になる見込みである。そこをどう考えるか。それまでの間、大規模校を辛抱できるか、できないか、そこら辺のことが非常に気掛かりである。2校の場合は、順調に推移するが、有明地域が令和17年あたりから少なくなる見込み。そこら辺の議論を深めていきたいと思う。

議 長: ただ今、説明があつた。1校の場合と2校の場合、それぞれ学級数が書いてある。12から18学級というのが適正規模となっているが、2校の場合を見ると、白石・福富地域は遅くまで適正規模で推移するわけだが、有明地域が令和17年頃には10学級になるというような推移になっている。その辺をどう見るかということになる。前回に続き1校がいい、2校がいいというようなことで、議論を進めていただければと思う。

事務局: もうひとつ委員の方から、大規模の小学校ではどういう工夫をしているかというのを調べるようにというお話があつたので、その報告をさせていただきたいと思う。口頭で、説明させていただく。

県内の大規模小学校に問い合わせをしたものである。ただ、今から説明する事例は、最初から900人規模の大規模小学校だったわけではなく、もともとは500、600人規模の小学校であったが、それが宅地造成等で児童数が増えて900人規模になった学校の例である。前回少し話が出たことの繰り返しにはなるが、いくつかお話しする。

全校児童が校舎を移動する時には、例えば3階建て校舎だと、1階2階に低学年、中学年の児童、3階に高学年の児童がいるとして、それが一度に移動すると、低・中学年の児童を、高学年の児童が押し倒してしまう可能性が出て来るので、時間を分けて移動させている。まず1階の低学年から、中学年、高学年と時間をずらして順に移動をするよう指示を出す必要があるとのこと。小学校の場合1コマが45分だが、移動での行き来に15分、15分の30分掛かるので、45分中集会ができるのは15分となってしまふ。このように非常に移動時間が掛かるので、全体集会は取りやめ、テレビ集会に切り替えているという学校があった。それから、卒業式には全学年での出席が困難なので、低学年は卒業式には参加せず、別途6年生とお別れ会を開催する学校がある。

それから、特別教室や理科教室等の不足もあげられる。特別教室の使用については、高学年の方が比較的多く、低学年の方が少ないので、カリキュラムを作るにあたり、同じ時間帯に高学年と低学年を組み合わせているとのこと。しかし、学校行事でカリキュラム変更をする時は、それが難しいので、最終的には理科の実験用具を普通教室に持ってきて実験をせざるを得ないという工夫をしているというお話だった。

それから、プールが複数学年、複数クラスでの使用になるので、面積的に半分ずつ使うなどして工夫をしている。ただ、1人あたりの泳ぐ時間は短くならざるを得ない。

保健室においても、児童数が多い為にいつもいっぱい、養護教諭を2人配置しているが、それでも対応できないので、「よほどの時ではないと保健室に行くな」という指導をしているということだった。

また、図書室において、一度に児童が来ては、本のバーコード読み取りの時間が足らず、次の授業時間に食い込んでしまうということで、本を借りるのは学年ごとに曜日を決めて週に1回、という指導をしているという話。

根本的な解決というのは、やはり学校を分けることであり、例としては武雄市などがある。

それから、今は大規模だが、今後減少が見込まれるので、増設した教室については、後々老人介護施設に転用できるような建築をしているという学校もあった。以上が、大規模小学校での工夫対応の報告である。

- 議 長: ありがとうございます。只今の事務局の説明も含めて、何か質問があればお願いします。
- 委 員 B: 児童数の話だが、前回は令和8年度の予想で有明地域は282人と出ているが、今回の試算では令和12年度で288人となっている。数字がどんどん変わっている気がする。
- 事 務 局: 今回の資料は、基となるデータが違う。資料44で示した282人というのは、住民基本台帳(一部据え置き)を使った数字である。住民基本台帳については、今現在生まれている方までの数値しかなく、将来予測が立てられないので、今回は、社人研データを使用したところである。
- 委 員 B: 白石・福富地域と有明地域の児童数を、2対1で分ける方法が乱暴ではないかと思う。社人研の数値で、町内の児童数の推計をとるのはいいのだが、それを有明地域とそれ以外のところで分けるときに、令和8年の数字は実数なのに、その実数よりも多くなってしまっているのは、割合の作り方がおかしいのではないかと思う。
- 事 務 局: 確かにそうだと思うが、社人研の方は、字別に出ていないので、こういう作り方になった。下の方にも書いているが、平成27年度から31年度の5年間でいうと、ほぼ2対1の割合で推移していたので、一応今回こういう分け方をさせていただいている。言われるとおりに、確証はない状況。
- 委 員 B: ただ、実際のところと言うと、令和17年度より前に有明地域の学校が適正規模を下回るということは想定できる。なのに、どうしてこの数字で議論しないといけないのかというのがちょっと気になる。
- 事 務 局: あくまでも将来推計を見たかたち、将来こうなることも分かっていた上で、今回審議をしていただきたいということで資料を出した。
- 委 員 B: 将来そうなるということは、もっと早くそうなるということを言わないといけないのではないか。有明地域においては、令和17年より早く、適正規模を下回るのではないか。そのことが想定されるのではないか。
- 議 長: これは社人研の数字であり、何か尺度がないといけないということで、こういったデータを使っている。また、今の小学生の児童数の実態が、白石・福富と有明において、おおよそ2対1になっているということで計算してある。ピシッとした数字が出れば一番いい訳だが、あくまでもこれは社人研の数字で、2対1というもおおよそその割合である。例えば、令和12年に12学級、令和17年に10学級ということになっているが、このスピードは果たしてこのとおりになるかどうかというのは分からないが、一応傾向として、こういった捉え方をして議論していこうかということなので、その辺はご理解いただきたいと思う。一番いいのはピシッとした数字が出るのがいいのだろうが、それぞれの推計で議論をしていかざるを得ないというふうに思う。

委員 A:校長先生がいらっしゃるのでお聞きするが、今説明があったものは、許容できない範囲なのか。

委員 C:許容というか、物理的に数が多くなるとそうなるということであって、今現在単学級であっても、時間差で入退場するなど、いろんな工夫はしている。あと、養護教諭の問題があったが、実はこれはとても大きな問題で、今実際、怪我で保健室に行く児童というのはそんなに多くなく、心身を含めた不調等で、養護教諭の役割が非常に大きくなっている。そういうことで、2人態勢になってもなかなか難しいだろうというような予測はつくところである。

委員 D:大きかったら大きいなりに、時間を掛けて移動するのであったり、理科の授業でも普通教室で行うなど、工夫していけば、なんとか対応できると思ったりはする。ただ、今学校で気を遣っているのは、個別の支援や、よりきめ細やかな指導が必要な為に、そこに人的配置をお願いするような、今の時代に必要な準備ができるのかということ。それは大きければ大きいほど、危険性が高く、そういう条件自体が多くなるわけなので、できれば規制的には適正規模の方が、より良いと考える。

議長:いろいろ意見があるかと思う。1校で適正規模を超えていても、しばらくはいろんな工夫して学校運営をし、その間児童には辛抱してもらおう。あるいは2校の適正規模でとりあえず進んで行って、後々また児童数が減れば1校にしていく、という議論がその前からずっと行われているが、今日もこういったかたちで、議論を進めていきたいと思う。皆さん方の意見をお願いしたい。委員Eさんどう思われるか。

委員 E:大規模校の話を知ると、デメリットの方が多いかなと感じる。わたし自身、最初は1校がいいと思ってずっと会議に参加していた。しかし、地元に戻ると、周りからは、「やっぱり地元小学校はあった方がいいよね」ということをよく言われる。でも、審議会の時には1校がいいかなと思う反面、1校にするとなると、低学年の子どもの通学が大変という親の気持ちとしてのデメリットを考える。きめ細やかな教育ができるとなれば、大規模校にはせずに、地元に残していただきたいなという思いもある。しかし、今後どうしても学校再編を考えていかなければならないという現実。わたしは学校からの推薦で委員として参加しているが、福富地域では、2、3年前にコミュニティスクールで小中一貫のお話があったが、消滅した経緯がある。その時話が進んでおけば、福富地域において、今こういう議論はなかったのかなと思う部分もある。今回1校、2校への再編の話をしているが、地元に戻り、保護者と話す時と、この審議会で話す時とではニュアンスが違っており、どうしても板挟みになってしまう。低学年の保護者ほど、通学距離の問題があるので、「3年生まででいいので地元に通わせてもらえないか」という考えがあるようだ。わたしたち以上に地元の保護

者の皆さんは、そういった議論をされている。どう説明していいかというのは難しいが、審議会で1校、2校に向かって進む中で、どっちがいいのか、わたし自身も考えながら、勉強しながらやっていかないといけない。養護教諭の問題とか、きめ細やかな教育の問題とかある中で、果たしてどちらがいいのかということ。少人数でも学校が存在した方がよいのか、日を追うごとに、自身の考えがだんだん難しくなっているなという実感である。

議長: ありがとうございます。では、委員 F さんどうか。

委員 F: わたしは最初3校案がいいと思った。それは素案を読んだこと。わたしにも保育園児と小学生がいるので、統合するのであれば、ちょうど関わることになる。一般論だと思うが、やっぱり親としては、学校まで遠いということがすごく気になる。1校案、2校案にしても、福富地域からのみ学校がなくなるようなかたちになる。わたしは福富に来て10年くらいになるが、やっぱり自分の子どもは近くの学校に通わせたいと思う。今まで福富に住んできた人たちの中には、地元の学校が無くなるのは絶対反対という方がたくさんいらっしゃると思う。でも、わたしは2校案がいいと思っている。理由は、やはりそういった考えを持つのは、今からの白石町の将来に繋がらないということ、教育においては、子どもの人数が少なくなっているから、適正規模を考え、改修工事や新築が必要だということでの統合再編の話だと思うからだ。新白石町となったが、福富・白石・有明と今まで、コミュニティがすごく強かった分、教育以外にも農業関係、スポーツ関係とかも、まだまだ3つに分かれている部分がたくさんある。考え方もそれぞれで、まだ1つになっていないというところがある。でも、教育においては、今からは1つで考えていかないといけないと思う。福富・白石・有明どこに住んでいる子どもたちも、みんなわたしたちの町の子どもたちなんだよ、みんなで守り、みんなで育てて行かないといけないよ、というふうに、子どもたち以外の周りの大人たちの考えを変えないといけないと思う。変えていくことから、いい学校を作ることに繋がるのではないかと思う。校区の話も出たのだが、わたしは少し有明の方を広げて、白石町内に小学校を2つ、例えば白石第1小学校、白石第2小学校みたいな感じで、白石町全体で、今から子どもたちを盛り上げて行こう、という感じの考え方に変えて行くと、いろんな問題が少しよくなるのかなと思う。1校案もいいなと思ったが、子どもたちのことを考えると適正規模になるまでの間にも、子どもはその学校に通うわけなので、やはり人数が多いといいこともあるが、デメリットの方がすごく気になるので、2校で校区を少し広げてみたらどうかというのがわたしの意見である。

議長: ありがとうございます。委員 G さんどうか。

委員 G: わたしの子どもは小中学校を卒業してしまったので、なかなか親としての意見というのが、離れてしまっているのだが、近くの保護者に聞いたりすると、

やっぱり地元 학교があつて欲しいという意見は聞く。自力で学校に登校して欲しい、毎日の送り迎えが必要となれば厳しい、子どもたちが歩いて行ける距離に学校があつた方が安心ではある、というのを聞く。自分たちの通つてきた学校が無くなるというのは、寂しいということもあるとは思ふ。10年15年後に子どもたちが少なくなるということでの統合再編ではあるが、今の中学生、高校生の中で、地元に残るといふ子どもたちが多くなつたら、人口が増えて来るのではないかなと思つてはいるのだが。なかなか仕事が地元にならぬことで、みんな町外に出て行つてしまふというのが現実。子どもが減つていくことばかり考へるのではなく、増やす方の考へも出てきたらいいのではないかなといふふうには思つてゐる。

議 長: ありがとうございます。委員 H さんどうか。

委 員 H: 先に質問をよいか。資料53の表の下2つで、2020 年で学級数を比べたら、34 と 34 だが、2025 年だと 28 と 30、2030 年だと 24 と 30、となつてゐるが、このずれといふのは計算の切り上げ、切り捨てみたいなき感じでのずれといふことでよろしいか。

事 務 局: 1学級40人、1年生は35人学級でこの児童数を出したということである。

委 員 H: ありがとうございます。肌感覚で言つと、900人、1,000人規模の小学校であれば1学年4クラスから5クラスとなり、わたしたち世代から言へば当たり前であつたような人数なので、別に問題なく行けるのかなといふ気はするが、最近の子どもたちの心身と言ふか、先ほどの保健室の問題など、深刻みたいなので、自分たちの時代とは違ふのだといふのを考へれば、現場の先生たちの意見といふのはものすごく大事なのだと思ひながら聞いていた。現有明中学校の耐用年数は 2045 年、2046 年あたりだつたと思ふ。感情論は考へずに、財政面や数字だけで見れば、令和7年あたりにある程度の規模の学校を1校新築しておいて、その10年、15年後といふところで、有明中学校も耐用年数が来るので、その時に一緒になるといふのがひとつの形なのかなといふ気はするが、先ほどお2人がおっしゃられたように、やはり地元で小学校があつて欲しいといふ感情といふのは、どうしても出て来るので、その辺をどうやつてケアしていくのかなといふ気はする。自分の中では、先ほど申し上げたように、まず1校新築しておいて、有明地域を後で一緒にするといふ形になりそうなのかなといふ気はしてゐる。

議 長: ありがとうございます。委員 I さんどうか。

委 員 I: わたし自体は、2校でどうなのかなと思つてゐる。先ほど言われていたと思ふが、有明地域の児童数が少ないので、もう少し校区を広げてみてはどうだろうか。白石地域と有明地域の子どもたちの割合を2対1ではなく、1対1になるように校区を広げて、白石町には小学校が2校あるといふ感じにしたらいいの

ではないかという思いはある。学校を中心とした通学距離の輪を見ていると、重なる部分が多い。場所的に白石小学校あたりを改築すると、重なる部分が多くなるので、もう少し福富寄りに建設したらどうだろうかと思う。そうすれば西と東に散らばるので、子どもたちの通学支援が広範囲にならないですむのではないかと考える。また、大規模校になった場合、保健室の問題等、わたしが子どもだった頃とは違うのかなと感じる。児童が多すぎるのでテレビ集会で対応していますという学校があったが、たぶん今だったらICTとかそういったのが出て来ているので、教室に居てパソコンの画面に先生が映ってとか、そういったことでの対応はできると思うが、やっぱり子どもたち個々のケアをと考えると難しい気がする。白石町で育った子どもたちが大人になった時に、自分の子どもを白石町で育てたいなと思って、白石町に戻って来ようと思ってくれるような教育や環境を作ってあげられたらいいなと思っている。

議長：ありがとうございます。委員 Jさんどうか。

委員 J：わたしも何校かと言われると悩む。考えがまとまっていけないのだが、ハード面でいう環境インフラを整える、というのはひとつの問題だと思う。だから何校がいいのかという事が現在話されていると思う。もうひとつ、ソフト面で言うと、子どもたちの状態を考える。わたしは実際子どもたちに関わっているが、今の子どもたちは10年前の子どもたちと様態が全然違う。だから、こういった子どもの状態とかを考えると、もう学習だけではなく、今は学校の中にソーシャルワークがどんどん入って来るような時代になってきている。そういった環境インフラと学校のソフト面を考える時に、わたしの意見としては、1校にするとあまりにも大変になるのではないかなと思う。大規模になれば大規模になるほどそう思う。それはなぜかと言うと、今現在もそうだが、またこの先10年後の子どもたちのことを考えると、不登校もどんどん増えていき、先生たちにとっては勉強を教えるだけの問題になっていないから。だから、本当に大きな学校になってくると、そこらへんが大変になるのではないかなというふうに思っている。

議長：ありがとうございます。委員 Kさんお願いします。

委員 K：この審議会に参加させていただき、中学校の統合再編、今回の小学校の統合再編においては、何校がいいかというのは非常に頭の痛いところ。わたしの思いとしてはやはり3校で、各地域に1校ずつ残して欲しい。今回、白石町の学校統合再編だよりというのが初めて全戸配布された。広報白石では、毎月審議経過の記事が載っているが、やはりこの再編だよりを町民の皆さんが見られた時に、こういうことで審議を行っているんだなということは理解されると思うが、果たしてこれが本当に子どもたちのためなのかと感じる方もいるのではないか。確かに先ほどいただいた資料の人口推計を見ると、そのうち子どもたちはいなくなるのではないかと感じる方もいると思う。佐賀県内でも、人口

がどんどん増えている市町もある。基山町、江北町あたりはどんどん家が建ち、人口が増えて、学校も設備も整っているというようなことを新聞で見た。やはり小学校は地域と一緒にやっていくべきだと感じる。白石町は東西南北10km近くあるのに、1校にするというのは非常にリスクがあるのではないかと考えている。わたしはよく三日月小中学校の前を通るのだが、何か行事があるときは車がいっぱい。先生や保護者、ある時は警備会社の方が交通整理をしている。事故もたびたび起こっているのも目にする。子どもたちが多くなると事故の発生も多くなるのではと心配している。

議 長：ありがとうございます。本日はある程度、学校の数について少し議論を進めて行きたいと思う。そして校区についても、それぞれ考えてくるということだったので、そのあたりの意見を出していただければと思う。諮問を受けているので、まずは学校の数について、それから校区をどうするかというようなことで、議論を進めなくてはいけないと思う。そういったあたりを中心に話をいただければと思う。まず、前回から1校、2校、3校という案もあったが、それぞれ1校案、2校案、3校案というようなことで、意見をお持ちの方は願います。

委 員 D：今日の資料53を見て、さらに悩ましくなったなという印象をもつところ。前回の会議でも2校案と1校案があった。最終的には1校になるというのは皆さんイメージされていると思うが、この資料を見ると、2040年あたりには1校にならざるを得ないという感じはある。最終的には1校だが、それまでの約20年間をどう過ごすかがむしろ課題であると思う。今日の事務局の説明により、わたしは2040年あたりの時に、大きな校舎で小学生が活動しながら、高齢者の方が来られて一緒にパソコンを学んでいる姿や、お母さん方と一緒にダンスをやっている姿を理想的な環境としてイメージした。すでにそのあたりに視点を置いて校舎を作るとか、それを見越して理想に近い教育活動の展開であったり、学校づくりをする。あと、地域との連携も十分にとれた環境をイメージするところ。そのあたりの目的、将来ビジョンを見据えた答申にすれば、結果的には素晴らしい答申になっていくのかなという思いはある。320人程度の通学支援、大規模校であるがゆえに子どもたちの負担にならないかという大きな心配があるので、そこをどう考えるかが大事。今日の資料からすると1校の方が望ましいのだろうというメッセージ性は十分にあるような気がする。ただ、子どもたちの実態を考えた時に、本当に1校でいいのか、1校が理想かもしれないが、子どもたちのためだということを考えると、15年から20年間は2校でいった方がいいのではないかと考えている。

議 長：ありがとうございました。一足飛びに大規模校となるのか、あるいは段階的に児童生徒数の推移に合わせて、将来的に1校にもっていくのかというような議論もあったと思う。まずここで、3校案でなければいけないという方はいら

っしやるか？3校案は議論の対象ではないということによろしいか？

委員 L:それは福富から学校が無くなるという話になるのだから、福富地域の方に聞くべきではないのか。有明地域・白石地域が3校案を主張するのもおかしい話。1校、2校への再編であれば、福富地域から学校が無くなるわけで、もし有明地域から学校が無くなるというのであれば、わたしは地元が大好きなので、3校がよい。小学生の登下校の声が、おじちゃん、おばちゃんの力になっているのは分かりきっていること。令和27年頃に1校になるのはしょうがないが、現在まだ1,000人いる中で、いつから統合再編して2校、1校になるのか、それとももう少し先送りにして1校になるのか、というところ。

議 長:3校からいきなり1校というのもひとつの手かもしれないが、小規模校が小規模校のままでいけば、子どもたちに不便を掛けるからという理由で、再編を考えなければいけないということである。そういった考えで、意見を出していただければと思う。3校案の意見がなければ、3校案を対象から外して、2校、1校で議論をいただければと思うがいかがか。なければ、前回から意見を聞いていて、やや収斂したかなという感じもしている。最初は2校、そして後々1校にまとまる、そんな考え方かなという気はしているが、皆さん方いかがか。これで決を採るというのも、なかなか難しいと思うので、少し待ってという方がいたら、意見をいただき、また議論を進めて行きたいと思う。

委員 M:1校にしたらどうなのかというのをだいぶ頭の中で考えていた。子どもたちのことを一番に考えれば、やっぱり適正規模にこだわるべきだとわたし自身思っている。そう思うと、将来適正規模を割ってしまうから、今は少し我慢してでも、将来のことを思って1校で初めてみよう、というふうには到底思えない。今回の資料を見れば、誰しも将来を見据えたら1校だということしか見えて来ないと思う。前回も議論しているが、結局減ることしか考えないということなのかもわからないが、増やす施策はもともとないのかなと思う。わたしたちもそれに何か協力できることがあればと思うが、増やす施策を作るのはわたしたちでもなんでもなし、どこがやるかということではあると思うが。でも、将来減るから1校に、だから答申にも将来適正規模を割るから1校になりますよ、というふうな話になるのかどうか。なんかそのあたりが堂々巡りで回ってしまっている。わたしが主張するのは、小学校2校で、校区を変えてでも、その適正規模が長く続く、推計の中でも長く続けられるような策はないのかなというふうに思っではいる。最初から1校になってしまうことで、では、将来1校を見据えてというのも、頭の中で整理がつかなくなってきたなというふうに思っている。ただやっぱり2校で校区を変えてというわたしの考え方には、ブレはない。なぜかと言うと、今の子どもたちも含めて、これから何年か後の子どもたちのことも考えると、やっぱり適正規模を重視する目線だと考えると、そうせざるを得ないのかなと

いうふうに思っている。

議長 長:ありがとうございました。他に何かないか。

委員 B:私も委員Mの意見にかなり似ている。将来1校にするというのを答申に盛り込むのかという話も前回あげたが、そこは子どもたちにも町民の方にも、「将来は1校になるんだ、そんなものなのね」というふうに思わせていいのかという気持ちはある。もうひとつは、もともとわたしは1校案ではあったが、よくよく考えてみると、子どものことを考えて適正規模が設けられているわけである。教育には何が必要かということを考えて適正規模というのが設けられているとすれば、そこは重視しないといけないのかなと強く思っている。そういうことからすると、やはり2校は大事なのかなと思う。将来の人口推計は正確にはわからないものなので、その議論をするのかなという気もする。ただ、有明地域が少ないというのは目に見えていること。それについて、前回、学区を広げるといふ考えはないという感じで事務局が言われたことが、少し悲しかった。それもおかしい話で、やってもいないのに、どうしてできないと言うのか、わたしはわからなかった。子どものことを考えて、わたしたちは議論をしているのだったら、そこはやってみないといけないのかな、という気はしている。だから、わたしは委員Mと同意見で、適正規模を考えて2校、それに見合う児童数の振分けは必要なのかなと思っている。

議長 長:ありがとうございました。だいたい2校案が出て来ているようだが。

委員 E:この議論において、福富から学校が無くなるということは、地元の人たちには間違いなく不満である。この会議に参加しているが、地元の方にどうだったか聞かれても、感情論過ぎて答えきれないところがある。では、福富地域に学校を残せる方法はないのか？残さないのだったら、町内みんなシャッフルしてきれいに2つに割るといふやり方もひとつあると思う。ここで、福富・有明・白石の地域感情を壊してしまわないと、前に進んで行かないと思う。コミュニティは必要だが、後に1校にするという前提で動くのならば、そこをすべて無くしてしまって、全く新しい学校、白石第1小学校、白石第2小学校というような作り方をして行かないといけないと考える。人口を見て、「やっぱり福富が無くなったね」と言われるのもきついものがある。適正規模を考え、どこで線引きをして、どの場所に学校を作っていくかということでの2校ならば、皆さんも納得するだろうが、福富地域が白石地域にくっついて、有明地域は残して、という議論が果たして、福富地域の皆さんに受け入れられるのかということ。そこを一番心配している。先ほど言われたように、2対1の比ではなく、1対1になるように全体を割って、そこで学校を作るという考え方も必要ではないかと思う。

議長 長:ありがとうございました。だいたい2校に収斂されたのかなと思うが、学区については皆さんどうお考えか。今の学区をきれいに崩して、再編すること

になれば、学校の規模としては、2対1という感じにはならないというようなことにもなるが。

委員 N: 2校案が出ているが、この表から見てとれるように、人口が減少していくから、いずれは1校になるだろうと思うと、とても悲しくなってしまう。“人口が減少していくから1校になる可能性がある”という表現ではなく、“よりよい学校を目指すために、1校になる可能性がある”みたいな書き方をしていけばいいのかなと思った。人数が少なくなってもそのままであることもある。考え方だと思うので、減少を強調しないでやっていけばいいのかなと思った。白石町には対等な学校が2校あり、すべて同じような教育環境で行く、どちらも対等です、というような方向で行けばいいのかなと思う。いずれそうなることを前提に考えていけば、あまりみじめな気持ちにならなくていいのかなと思った。

議長: ありがとうございます。学区について、少し議論をしていただければと思う。学区を新しく再編するというようなことでいくのか、あるいは今まで通り、有明地域、白石地域、福富地域のそれぞれの学区を持ちながら、再編を考えるというような形にするのか、その辺を議論していただければと思う。

委員 B: 諮問の中で、学校の位置を決めないといけないことになっているが、その学校の位置というのは、ピンポイントでここだと決めなくてもいいのかどうか。決めないといけないとなると、なかなか意見というのは求めにくいのかなと思っているが。地理環境等を考慮しながら、やっていかないといけない。

議長: 学校の位置までは求められていないと思うが、事務局どうだったか。

委員 B: 諮問には学校数、学校の位置等と書いてあった。そもそも位置の決定は、ピンポイントではなく、大まかな考え方くらいにしないと、おそらく何もまとまらないのかなと思う。委員の皆さんはいろいろなお考えを持って、いろいろな立場から集まって議論しているので、場所についてはまとまらないのではないかな。

事務局: 今お尋ねの件だが、まず諮問書の中で、小学校の再編策ということで、学校数、学校の位置等としている。この位置は、的確にどこというまでではない。例えば、今までのお話にあっているように、“中心地”とか“北部”とかそういうふうな決め方で結構である。ただ、ひとつのやり方としては、例えば“〇〇小学校を活用して”とか、“白石中学校を活用して”というような言葉が出たが、そのような表現もひとつの位置の表示になる。必ずしも具体的なところでなく、ある程度のところで結構である。

議長: ということでよいか？位置については、“白石町のどのあたり”とか、“北部”とか“南部”とかという言い方もいいし、少し漠然と、頭の中に描けるような位置であればいいのかなという気がする。諮問されているのは、学校数や学校の位置等という格好になっている。学校数は小学校の場合は、2校に収斂されたかなと思っているが、それでよいか。

教 育 長:熱心な審議ありがとうございます。ずっと審議の経緯をここで見させていた
ただいている中、数人の委員さんからも出ましたが、是非審議の視点として、
これだけはお分かりいただきたいということで、子どもの状況が非常に変わっ
てきているということ、いづらかお伝えしておきたいと思えます。

いろいろな面があるのですが、分かりやすいのが、特別支援教育対象の児童
生徒です。平成25年度は小中学校合わせて45名でした。本年度は111名で
す。内訳は小学校が86名、中学校が25名。来年度の見込みが127名です。
7年間で2.8倍になっています。しかも、今ノーマライゼーションという考え方
で、障害のあるなし関わらず、共に学ぶという視点で教育が進んでいますの
で、障害の種別、知的、情緒、肢体不自由、難聴、病弱、こういったすべての種
別についても学校が受け入れるということで進んでおります。この増え方は、白
石町ばかりではなくて、県でも全国でも同じ傾向です。どんどん増えています。
このことも考慮をしておかないといけません。わたしは今年66歳になり、わた
しの子どもの時代は半世紀も前になるのですが、やっぱり子どもたちの状態とい
うのは比べるまでもなく全然違うのです。育ちもライフスタイルも経験も。
小学校前までに獲得すべきいろんなものも全然違います。そういったことを、頭
に入れておかなければならないのです。

不登校についても、皆さん方が小学校の頃はなかったと思えます。平成30
年度の統計では、佐賀県で小中合わせて1,300人くらいいるのです。全国で
は12、3万人という数で、いろんな努力がなされているのですが、残念ながら、
こちらもどんどん増えています。こういう状況ですので、学校はただ授業をして
いけばいいというものではないのです。一般の子ども以上に、いろんなところで
配慮しなければならない子どもたちを、しっかり社会的に自立させるために、い
ろんな動きがあるわけです。白石町はスクールアシスタントという制度を全国的
にもいち早く、平成26年度から取り入れています。現在、小中合わせて52名
の方に教室に入ってもらっています。いわゆる普通学級にも特別支援教育
の対象ではないが、配慮を要する子どもたちが複数いるので、そういう子ども
たちに担任と一緒に付いてもらい、頑張ってもらっている状況です。

こういうふうには、子どもたちの状況は大きく変わっています。益々厳しい状況
になっています。ただ不登校については、県内でどんどん増えている状況の
中、幸い白石町は、踏み止まっています。でも今後はわかりません。これは、学
校だけではなく地域、特に家庭、幼児教育、小さい頃からの教育あたりとしま
り連携しなければ、なかなか一朝一夕には解決できない問題なのです。そう
いった中で、子どもを育てていかなければなりません。そのためのハード面、ソ
フト面はどうなのかというようなことを是非この審議の柱として考えておいて
いただきたいという思いで発言させていただきました。

議 長:ここで、まとめないといけないような感じだが。少し休憩することにする。
事 務 局:この時計で8時25分までを休憩とさせていただきます。

(休憩後、再開)

議 長:審議会を再開する。いろいろと意見を出していただいた。議論をするのに、何かないとやりにくいだろうと思っている。それで、あくまでも案だが、2校での答申案のたたき台を作りたいと思う。それを皆さんで見て、文言等の修正をしていただければと思う。それから、学校の位置等の話もいろいろあった。そういった話の経過も踏まえて、学校の位置もたたき台として作って、皆さん方から意見をいただきながら最終的な案まで持っていきたいと思っているがいかがか。ということで、今日はこれで終わりにしたいと思う。皆さん方、意見を出していただき、出尽くしたと思うので、少し答申案のたたき台を作成して、それについてまた、いろいろ議論していただければ深まると思うので、そのようにしたいと思っている。

事 務 局:それでは、今会長の方からご提案があったように、事務局の方で、たたき台を作ってみたいと思う。それを基にして、お話をいただきたいと思う。それでは、松尾会長、進行ありがとうございました。

5 連絡事項

(1)第10回審議会の開催日について

第10回審議会 1月21日(火) 19時～ 福富ゆうあい館研修室

(2)その他

6 閉会